

国際アーサー王学会日本支部 2014 年度年次大会  
第 1 部：シンポジウム「書物の過去と未来」  
2014 年 12 月 13 日 於龍谷大学大宮学舎南翼 203 教室

# 印刷本と電子校訂

小栗栖等 (和歌山大学)

## 1 電子校訂オックスフォード本『ロラン』：Projet Rollant

### 本日のテーマ

去年、私は、「電子校訂 オックスフォード本『ロラン』」を WEB 上に公開しました。今日は、その校訂作業を進める際に、どうコンピューターを利用したか・そして、現在利用しているか、をお話したいと思えます。『ロランの歌』は韻文作品ですから、今日紹介する手法は、韻文作品にしかあてはまらない部分もありますが、その点をご了承ください。また、本日の話では、写本や印刷本が、すでに電子画像化されていることが前提となっています。現在では、多くの PDF がインターネット上で入手可能ですから、そういう前提がある程度、成り立つのではないかと思います。

では、私の「電子校訂」をまず、ご覧頂きましょう。ハンドアウトの裏をご覧ください。

このように、校訂テキストの各詩行に、様々な情報を集積したのが電子校訂の実体です。

- 第一の脚注では、私自身の注釈に加え、私の校訂テキストと他の校訂本の異同が記載されています。
- 第二の脚注では、ある詩行について、他の校訂本に注釈がある場合には、その注釈の〈ありか〉が頁やセクション番号で記されています。
- 第三の脚注では、ある詩行について、文法書に記述が有る場合に、その文法記述の〈ありか〉が頁やセクション番号で記されています。

こうした脚注を作成しようとする、校訂本や文法書を片っ端から参照するという作業が必要になります。つまり、多数の印刷本をどうさばくかが、重要な問題となります。けれども、その前に、校訂テキストを作るためには、写本を扱う必要があります。そこから、話を始めましょう。写本の電算処理と印刷本の電算処理には通底するところも多いからです。

## 2 写本と電子校訂:Oliphant — 写本画像の検索

### 課題

校訂作業を進める際、写本について、非常に困るのは、行番号が付いてないことです。一行や二行なら、写本上で見つける手間は気になりませんが、100 行、200 行となると、話は別です。たとえば、写本で用いられている略語の解釈の一貫性を確かめたい場合や、難読文字の類例探し、などを思い浮かべていただくと良いでしょう。そうした問題を解決するために、私が作成したのが、Oliphant というソフトです。それを、ご紹介したいと思います。これ以降も同じですが、コンピューターの操作を言葉で表現するのは、難しいので、映像でご紹介したいと思います。ご覧下さい。

- [2\\_Oliphant-1](#) [1:39](#)

- [2\\_Oliphan-2](#) [1:26](#)

#### 要点

まとめますと、写本の画像に行番号を付すことができるだけでなく、番号を使って、写本画像の詩行を呼び出すことができる、ということが一点、さらに、電子テキストも詩行を使って呼び出すことができるので、写本の画像と電子テキストを同時に呼び出して、見比べることもできる。というのが第二点です。電子テキストの検索結果を、写本の画像で確かめることもできました。校訂テキストも、電子テキストの一つです。ですから、Oliphanによって、校訂テキストと見比べながら、写本の読みを詳細に検討することができます。

### 3 過去の校訂本: Escarboncle — 複数書籍の横断

#### 課題

次に、脚注の話に移りましょう。そこでは、過去の校訂本が検討の対象となっていました。ところで、『ロランの歌』のような有名作ですと、過去の校訂本の数が相当数になります。置き場所に困るわけですが、単に、PDF化すると、とても扱いづらくなります。印刷本でも、目当ての詩行を見つけ出すのは、面倒な作業ですが、PDFにするといっそうこれが難しくなります。印刷本なら、目当ての頁を探しながら、ぱらぱらと連続性のもとに頁を繰るといことができます。けれども、こうした連続性を、PDFのスクロールでは再現できません。PDFはピンポイントで表示頁を指示してやらないといけないのです。でも、その表示すべき頁がわからないから、ぱらぱらとやりたいわけです。この困った事態を解決するために、私が作成したのが、Escarboncleです。映像をご覧ください。

- [3\\_Escarboncle-1](#) [1:14](#)
- [3\\_Escarboncle-2](#) [1:19](#)

#### 要点

- 詩行番号を入力して、刊行本の該当頁を表示させることができる。
- その操作を、複数の刊行本に対して、一括して行うことができる。
- 同じことが、脚注や巻末中にも行える。
- また、ロランのような武勲詩作品の場合、詩節 (laisse) 番号でも同じことができます。

さて、ここまでは、校訂作業と強く結びついた形で、写本や印刷本の処理の問題を扱ってきました。今度は、校訂作業だけでなく、もっと広く、文学研究や言語研究にも、あてはまる形での、印刷本の処理の問題を扱いたいと思います。まずは、辞書検索の問題です。

### 4 電子辞書: Durendal, Almace — 複数の辞書の横断

#### 課題

大型辞書は、かさばる上に、検索に非常に手間がかかります。単にPDF化しても、ほとんど役に立ってくれません。これを解決する一番の方法は、電子辞書にすることです。けれども、それはそれで、問題があります。それを映像でご覧頂きます。

- [4\\_Almace](#) [1:31](#) 完全電子化：TCAF, 全ての見出し語を電子化:Van Daele

## 課題

電子辞書化には、大きなコストがかかります。映像に出てきた、古仏語動詞活用表や、画像辞書の Van Daele は、変化形から辞書を検索できるので、古仏語の初心者・学習者には大変便利です。必然的にユーザの数も多くなります。その意味で、コストとベネフィットは釣り合っていると思いますが、全ての辞書に同じことがあてはまるわけではありません。電子辞書作成のコストを何とか圧縮したいと考えて、考案したのが、不連続辞書という仕組みです。では、映像でご紹介します。

- |                  |      |
|------------------|------|
| 4_Durendal-1.mov | 1:25 |
|------------------|------|
- |                  |      |
|------------------|------|
| 4_Durendal-2.mov | 1:38 |
|------------------|------|

## 要点：

- 不連続辞書は辞書の各頁の最初の単語だけを入力するので、辞書の頁数文の単語を入力するだけで作成できる。
- コストが低いので、大型辞書だけでなく、中型辞書も電子化することで、机上に辞書を置くことなく、作業ができる
- 複数の不連続辞書を一括検索できる辞書セットを作成できる
- 画像を使った電子辞書では、印刷本の優れた組版を活用できるのもメリットである

## 5 PDF 書籍: Veillantif — 複数の文法書の横断

### 課題

辞書と同様、文法書も単に PDF 化しただけでは、あまり便利ではありません。通読するよりは、索引や目次を使って、必要箇所を読むという使い方が、主になるからです。その場合、索引や目次の使い勝手の悪さが PDF の最大の問題点ということになります。たとえば、せっかく目次を確かめても、PDF の頁番号と元の書籍の頁番号がずれていると、とても不便な思いをすることになります。索引も同様です。しかも、索引の場合、目当ての見出し語を見つけるのも、かなり、厄介な作業です。先ほども言いましたが、パラパラと頁を繰ることができないからです。それを補うはずの、しおりも、それほど、便利では有りません。たとえば、Acrobat では、一つのしおりを作成するのに、何度もクリックをしなければならず、とても面倒です。しかも、しおり、数が増えると、画面上で見渡せなくなって、スクロールが必要になります。コンピューターの画面上で何かを探したいとき、スクロールが全く役に立たないのは、PDF 本体の頁移動の際で、もう証明済みです。Acrobat のしおりより、簡単に作成できて、しかも柔軟に検索できたら、どれほど良いでしょうか。また、PDF の頁とは無関係に、書籍の頁やセクション番号を扱えたら、どれほど便利でしょうか。そう考えて、私が現在開発しているのが、Veillantif です。

- |              |      |
|--------------|------|
| Veillantif-1 | 2:25 |
|--------------|------|

## 要点：

- 索引を多用する書籍に関しては、Acrobat のしおりは労力に引き合わない。
- Veillantif では、複数索引を区別して、検索し、PDF の頁とは無関係の頁番号・セクション番号で該当頁を呼び出せる。

## 6 電子テキスト：Halteclere

**課題** 電子テキストは便利です。ワープロソフトで検索しても、ある程度は役に立ちます。けれども、それでは、不満な点も少なくありません。複数の電子テキストを一括して検索するのは難しいですし、何よりも、単語単位での検索がやりにくい。検索結果を整理するのも大変です。それらの不満を解決するために私が考案したのが、HpConc です。これは、電子テキストの全ての語形の索引を電子化したものです。映像をご覧ください。

- |            |      |
|------------|------|
| Halteclere | 1:35 |
|------------|------|

## 7 まとめ

今日は、私が普段利用している自作ソフトを紹介させていただきました。公開状況は、ハンドアウトに記載してあります。中には、公開していないソフトもあって、そんなものを紹介しても無意味なのではないかと思われるかも知れません。けれども、どういうことが可能なか知っておいていただくことが大変重要なのではないかと、私は思っています。研究上で、何かの作業が必要になったとき、私が紹介したソフトが役に立つかも知れません。あるいは、直接役に立たなくても、少し手直ししたら、役に立つかも知れません。そういった時には、私に、ご連絡いただければ良い訳です

手間がかかりすぎて、とても、できないと思えるようなアイデアでも、コンピュータが可能にしてくれることがあります。けれども、その可能性を知るヒントがないと、せっかくのアイデアを、最初からあきらめてしまうということになりかねません。さらにいうと、手間が膨大なあまり、途方もないとされて頭に浮かびさえもしないような、アイデアが、コンピュータの能力に触れることで、初めて、検討されることさえもあります。私自身は、そういう経験を何度もしました。私の発表がきっかけで、皆さんの身に、そういうことがもし、起こったなら、それほどうれしいことはありません。発表の機会をお与えいただいたことに感謝いたします。

## 8 割愛した映像

- |              |      |
|--------------|------|
| Veillantif-2 | 1:21 |
|--------------|------|

 Veillantif のデータ入力
- |        |      |
|--------|------|
| EdEl-1 | 1:19 |
|--------|------|

 電子校訂の概要
- |        |      |
|--------|------|
| EdEl-2 | 2:11 |
|--------|------|

 『ロランの歌』データベースの構造